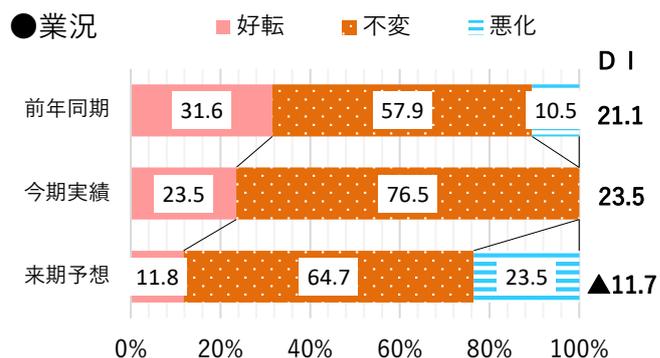


卸 売 業

業況、売上、採算

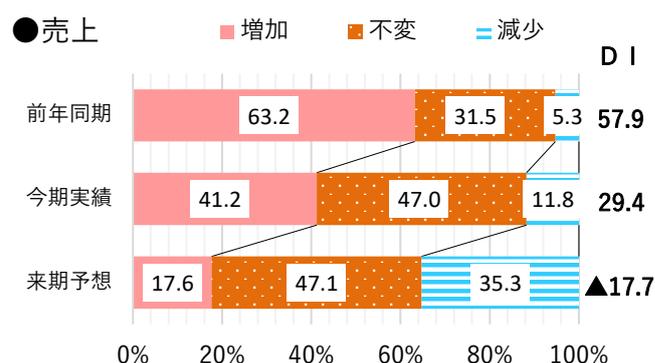
今期(2024.10~12)の業況判断DIは23.5で、前年同期(2023.10~12)と比べ2.4ポイント上昇しました。

来期(2025.1~3)は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



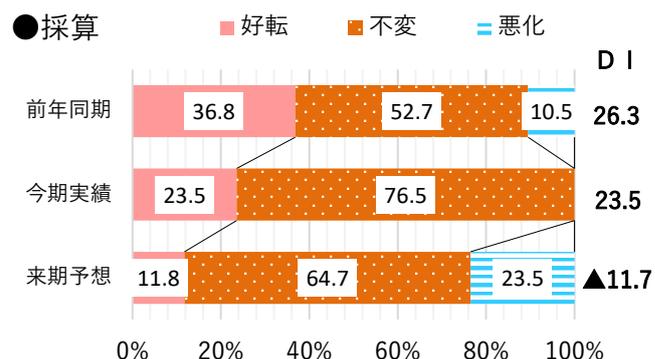
今期の売上DIは29.4で、前年同期と比べ28.5ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。

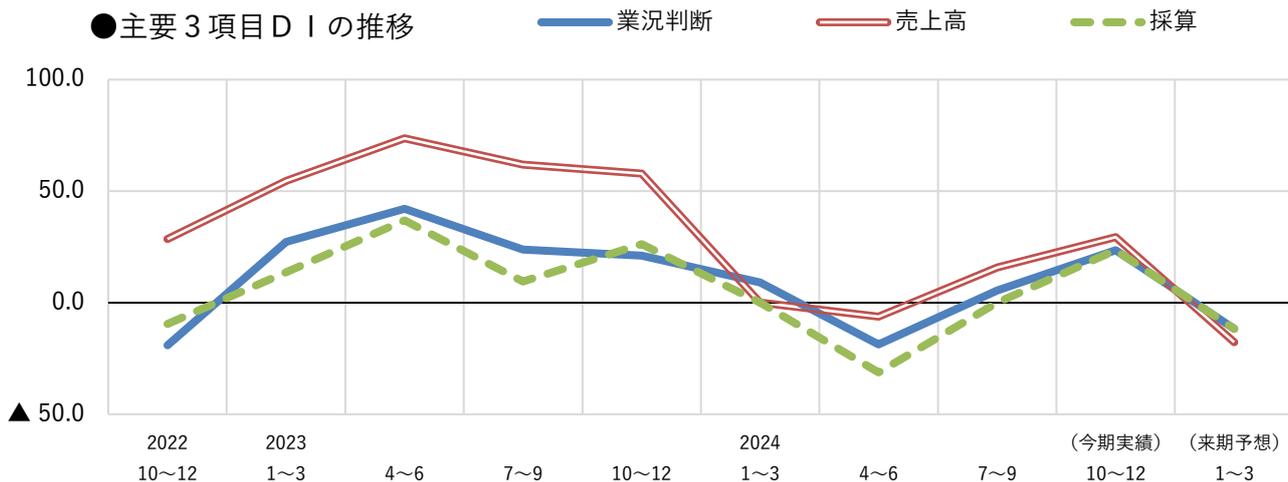


今期の採算DIは23.5で、前年同期と比べ2.8ポイント低下しました。

来期は、採算が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



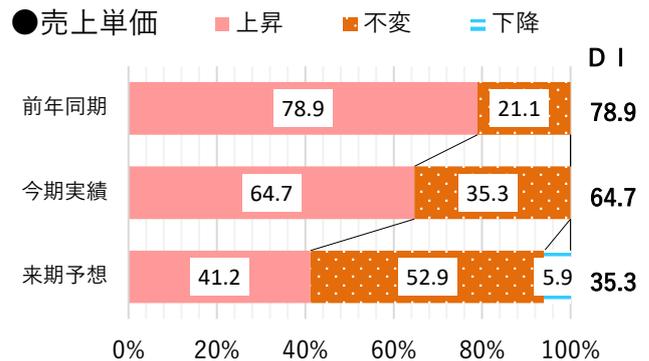
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

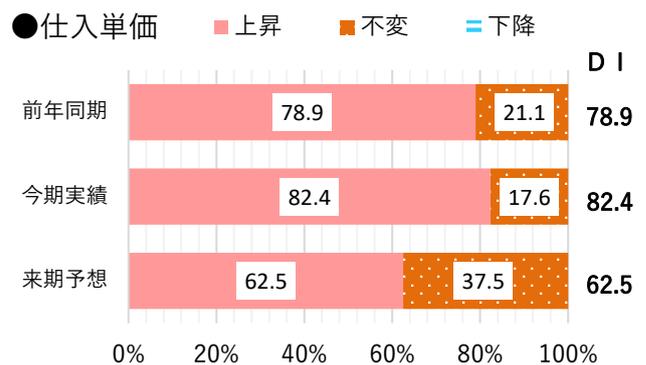
今期の売上単価DIは64.7で、前年同期と比べ14.2ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは82.4で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

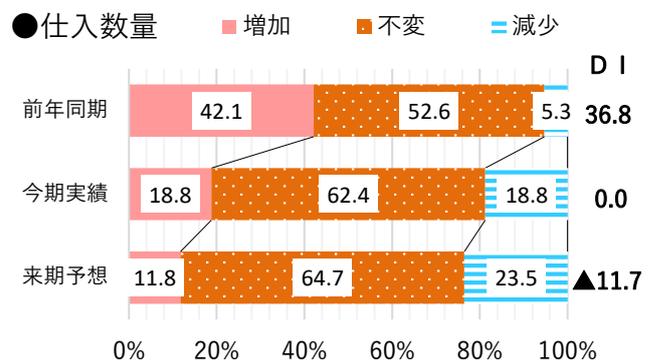
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

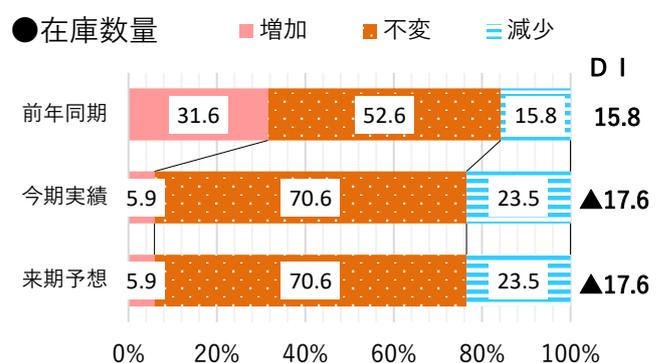
今期の仕入数量DIは0.0で、前年同期と比べ36.8ポイントと大幅に低下しました。

来期は、仕入数量がマイナスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲17.6で、前年同期と比べ33.4ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

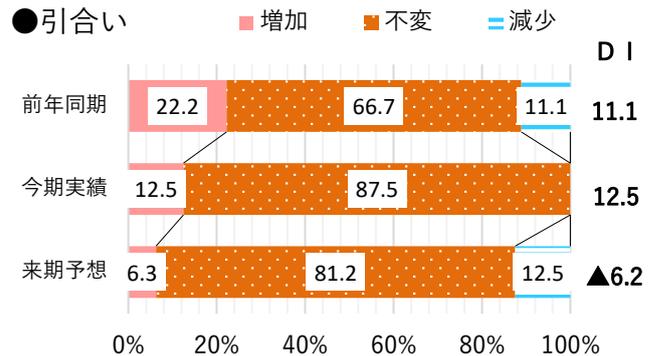
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは12.5で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

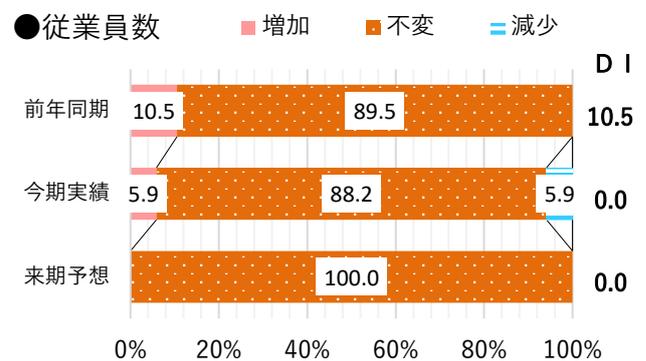
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



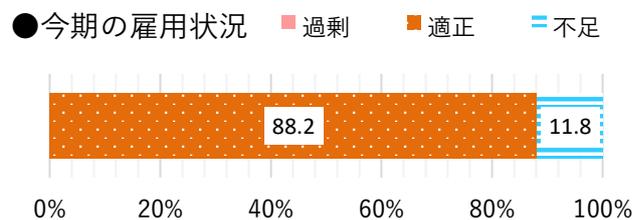
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ10.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数に変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は88.2%、不足していると回答した企業の割合は11.8%でした。



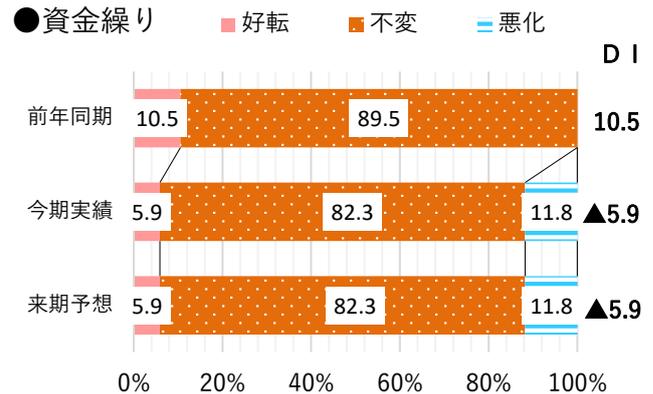
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の76.5%を占めており、不足と回答した企業は2社でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

資金繰り、設備投資

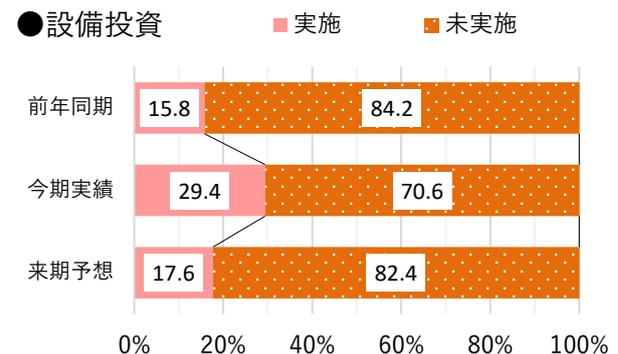
今期の資金繰りDIは▲5.9で、前年同期と比べ16.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



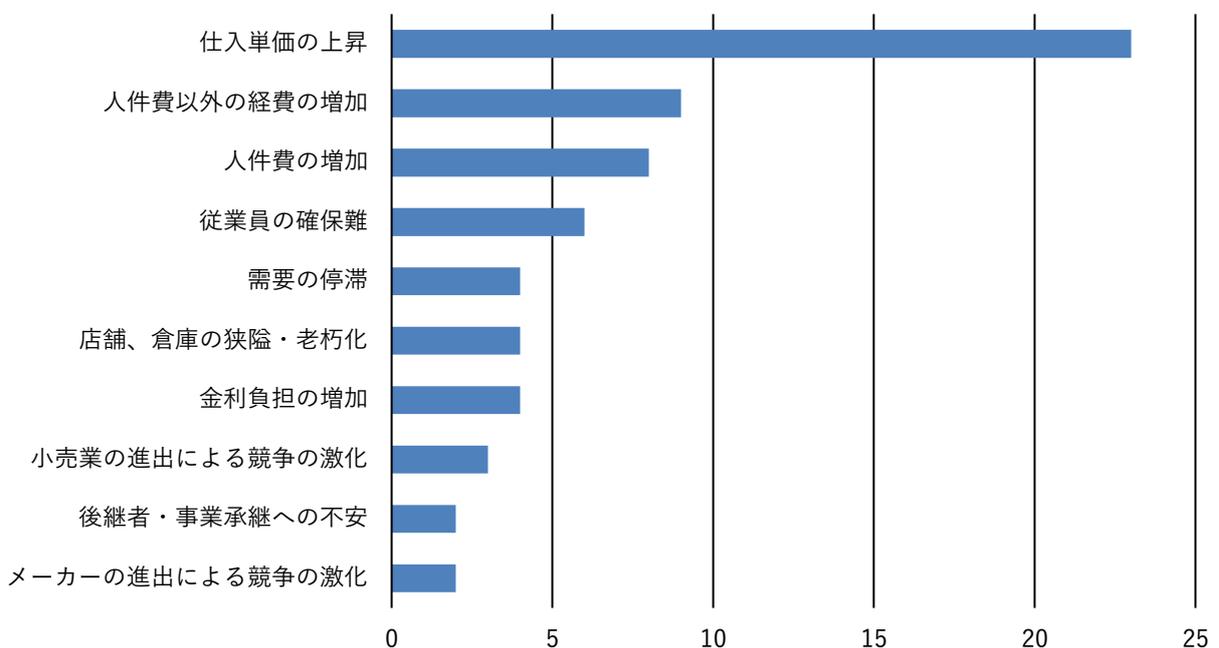
設備投資を実施した企業の割合は29.4%で、前年同期と比べ13.6%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」、「付帯施設」、「その他」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は17.6%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入単価が上昇した。販売単価、給料を引き上げた。(自動車部品)
- 全体的に需要はやや少なく、業者により仕事量の偏りが大きい。取りこぼしがないように丁寧な対応で乗り切ったと感じている。(建築材料)
- 売上額、仕入価格は10%増加した。人材は不足している。(建築材料)
- 売上は販売単価の上昇と大型案件が多かったことで増加した。(事務用品)
- 人口減少に伴って売上も減少しているが、仕入単価の上昇に合わせて販売単価も引き上げているため、売上を維持できている。(石油)
- 昨年1名退職したが、残った社員で乗り切った。売上は減少したが、利益は確保できた。(塗料)

[来期の業況について]

- 日本は資源の少ない国なので、原材料の価格変動が多く、負担が大きい。(自動車部品)
- 冬季の需要は少ないが、来期の景気は例年以上に良くないという同業者の声がある。(建築材料)
- まだまだ厳しい状況が続くと思われる。(塗料)